

セックス依存治療センター密着 24 時 ～暴走ち○ぽに囲まれて中出しされちゃう看護師カントボーイ～

ここは『セックス依存治療センター』日本でもまだ珍しい、深刻な性依存に悩む患者さんたちを専門に受け入れる更生支援機関です。

この施設で働く看護師の多くは、実はカントボーイの方々。

依存症状による突発的な暴走を抑え込む強靭さと、荒れ狂う性欲をまるごと受け止める深い包容力が求められるこの仕事は、今やカントボーイ界における花形職業として、熱い注目を浴びています。

本日は、ここでキャリア 5 年目を迎える看護師、天海聖司（あまみせいじ）さんにスポットを当て、その献身的な日常に密着取材を行っていきます。

まずは、準備を整えた天海さんの出勤時の様子から覗いてみましょう。

「おはようございます。看護師の天海です。本日はよろしくお願いいたします」

天海聖司さん。26歳。しっかりとした男性的な骨格を持ちながらも、柔らかな栗色のショートヘアと、チャームポイントである垂れ目がどこか愛らしい印象を与えます。その穏やかで親しみやすい雰囲気から、この施設では患者さん人気No.1を誇る看護師です。

カメラの前に現れた天海さんは、穏やかな笑みを浮かべて一礼します。ですが、その姿は一際目を引くものでした。

一本日はよろしくお願いいたします。……やはり、いつ拝見しても非常に特徴的な制服ですね。

こちらの施設の看護師の方々が纏う制服は、一般的な病院とは一線を画しています。

上半身こそ清潔感のあるナースウェアを着用していますが、腰から下は完全に丸裸の状態なのです。かろうじて膝上まで伸びる純白のニーハイソックスだけを身につけています

が、それがかえって、剥き出しになった肌の白さと肉感的な太腿のラインを、より鮮明に際立たせていました。

さらに驚くべきは、その徹底した管理体制です。緊急の処置を阻まぬよう陰毛は1本残らず綺麗に剃り上げられ、まるで幼子のようにつるりと滑らかな肌が露わになっているため、カントボーイの証である、熟れた割れ目までもが、隠すものなく白日の下に晒されていました。

「はい。患者さんは、いつ、いかなる時に発作的な症状を起こすかわかりません。性欲を瞬時に、そして安全に受け止めて治療にあたれるよう、常にこの制服が義務付けられているんです」

一失礼ながら、その……恥ずかしいと感じられたことはないのでしょうか？

「……そうですね。1年目の頃は、正直に申し上げて戸惑いや恥ずかしさもありました。ですが今は、これが患者さんを救うための正装だという誇りを持っています」

一点の曇りもない笑顔で言い切るその姿に、野暮な質問をしたこちらが恥ずかしくなってしまうほどです。天海さんの看護師としての高潔な志には、ただ脱帽するしかありません。

「勤務に入る前に、まずは引き継ぎ作業と身体検査を行います。よろしければ、実際にご覧になりますか？」

なんと、業務に欠かせないという「身体検査」の様子を特別に公開してくれるとのこと。早速見せていただきましょう。

※

身体検査は同僚とペアになり、お互いの「膣」や「肛門」が健やかな状態にあるかを確認する大切な作業です。

普段は膣を用いて「医療行為」を行いますが、場合によっては肛門も使うらしく、いつでも挿入できるように清潔な状態にしておくのだそう。

検査室の無機質なライトの下、天海さんは手慣れた動作で処置台に上がると、迷いなくその肢体を大きくM字に広げ

ました。遮るものがない、割れ目や陰核が、白日の下に晒されました。

「それでは、膣内の触診に入りますね」

ちゅぷ……っ。

入念な視診に続き、触診が始まります。ペアの看護師が手袋をはめ、ジェルをまとった指先が柔らかな膣口に入っていきます。

「……っ」

……ビクビクっ♡

指が根元まで入り、内壁の状態を探るように指先を曲げた瞬間、天海さんの身体が小さく震えました。

「あ、すみません。前立腺をかすめてしまいましたね……」

申し訳なさそうに同僚が声をかけます。

「……っ、ふ……。大丈夫です、続けて。……えっと、昨夜の、103号室の患者さんの経過は……？」

天海さんは吐息を漏らしながらも、淡々と引き継ぎ事項を口にします。ですが、どれほど精神を律していても、その豊かな肉体は嘘をつけません。

「膣内の濡れ具合、極めて良好。……天海さん、完璧ですよ」
「ありがとうございます……」

ぬちょお……♡♡♡

膣口からゆっくりと引き抜かれた指先には、透明な愛液が絡みつき、長い糸を引きながら床へと滴り落ちていきました。

一天海さん、お身体が少し……反応しているように見えますが。

「……あ、ええ。……お恥ずかしい話ですが、カントボーイとしての本能……とでも言うのでしょうか。どうしても刺激には敏感になってしまうんです」

潤んだ瞳でこちらを見つめ、困ったように微笑む天海さん。その姿には、先ほどまでの凜とした強さとは別の、抗いがたい色香が漂っていました。

※

身体検査を終えたばかりの検査室に、突如としてけたたましいアラート音が鳴り響きました。

「急患です！ 20代男性、性欲限界によるパニック状態で暴走中。今すぐ第3特別治療室へ！」

スピーカーから流れる緊迫した声に、天海さんの表情が一瞬で引き締まります。先ほどまで潤んでいた瞳は強い光を宿し、彼は手際よく下半身の身だしなみを整えました。

「急患です。これから治療室へ向かいます！」

カメラに向かって短く告げると、天海さんは迷いのない足取りで廊下へと飛び出しました。

電子ロックが解除され、第3特別治療室の扉が開いた瞬間……。室内には、理性を失い、獣のような咆哮を上げる若い男性患者の姿がありました。拘束帯を破らんばかりの勢いで暴れています。

「天海さん、鎮静剤が効きません。このままでは容体が……!」

焦る後輩看護師をゆっくり制し、天海さんは暴れ狂う患者のすぐ側まで歩み寄ります。

「うう、あああ……っ!」

「大丈夫ですよ。……今、楽になりますからね……直ちに処置を行います!」

緊急処置が始まりました。天海さんは、今にも暴発しそうなほど猛り狂うペニスへ手際よく医療用コンドームを装着します。そして、患者の太腿を跨ぐようにしてベッドへ乗りました。

「失礼しますね……」

純白のニーハイソックスに包まれた脚を広げ、そそり勃つペニスに狙いを定めると、静かに腰を下ろしていきます。

ぐぬぬぬ〜っ!!……どちゅんっ♡

「っ……ふう う……! ……大丈夫。大丈夫ですよ……ゆっくり動きますね」

天海さんの眉が、挿入の衝撃にわずかに歪みます。並の人間であれば壊れてしまいそうなくらい暴れる剛直を、彼はその肉体で、まるごと包み込んでしまいました。

天海さんは患者の腹筋に優しく手を添え、騎乗位のまま、ゆっくりと、それでいて力強く腰を波打たせます。

たんっ♡たんっ♡たんっ♡たんっ♡たんっ♡たんっ♡たんっ♡
♡たんっ♡たんっ♡たんっ♡たんっ♡

それは快樂のための動きではありません。暴走する患者の神経をなだめ、高ぶりすぎた性エネルギーを安全な形で射精させるための、熟練の医療技術です。

「深呼吸して……そうです。いち、に。いち、に……」

密着する肌と肌の間から、重たい肉のぶつかり合う音と、天海さんの慈愛に満ちた掛け声が続きます。次第に患者に理性が戻ってきました。

「はっ、はっ……!気持ち、いいっ……!」

「……そうです、上手ですよ。……おっぱいも触りますか? ……」

天海さんはナースウェアの前を開け、はだけた状態になると、患者の手をそっと取り、自らのむっちりとした豊かな胸元へと導きました。

すり♡すり♡……こりっ♡

「んっ♡いいですよ……っ。このまま全部私のナカに出しちゃいましょうね」

ぱちゅん♡ぱちゅん♡ぱちゅん♡ぱちゅん♡ぱちゅん♡ぱちゅん♡ぱちゅん♡ぱちゅん♡ぱちゅん♡ぱちゅん♡

固唾を呑んで見守っていた後輩看護師が、安堵の声で状況を伝えます。

「ん……っ。良かった。このまま少し休んだ後に入院手続き行いますからね……っ」

……ずるんっ♡

ペニスを引き抜き、天海さんはゆっくりとベッドから降りました。呼吸を整えながら、手際よく後片付けを進めていきます。

—お疲れ様でした。非常に緊迫した現場でしたね。……髪が少し、乱れていますが。

「あっ……。ふふ、すみません。そうですね、一刻の猶予もない状況でしたが、無事に安定して本当に良かったです」

乱れた髪を整え、はにかみながらインタビューに答える姿は、先ほどまでの凛々しいプロの顔とは別の、柔らかな一面を覗かせていました。

—治療の際に心掛けていることは、ありますか？

「コントロールできない性欲に、患者さんもととても不安を感じています。なので、どんな状況でも安心してもらえるような声かけを意識しています」

—やはり、治療の最中に……思わずイってしまったり、ということもあるのでしょうか。

「そ、それは……。そうですね。看護師である以前に、私もひとりのカントボーイですから……。すみません、これ以上は……」

頬を赤らめ、視線を逸らす天海さん。

—不躰な質問をしてしまい、申し訳ありません。引き続き、密着取材をよろしく願いいたします。

「はい!よろしく申し上げます」

※